

JCHO薬剤師レジデントプロジェクト

ポリバレントファーマシスト育成研修プログラム



幅広い視野で
地域医療を
支えられる薬剤師



専門性を磨きながら、
薬物療法の最適化に
貢献できる薬剤師



多職種と連携し、
患者中心の医療を
実践できる薬剤師



後進育成や組織づくりに
関われる薬剤師



常に学び続け、
成長できる薬剤師



成長を感じる 成長を楽しむ
なりたい未来がここにある



ポリバレントファーマシスト育成研修プログラムの 理念・基本方針

理念

急性期から慢性期において、効果的な薬物療法支援やチーム医療の推進、さらに地域医療に貢献できる病院薬剤師を育成します。

基本方針①



患者のために徹底的に考え抜くことが出来る人材を育成します。

基本方針②



病院および地域の多職種と協働し、組織横断的に活躍できる人材を育成します。

基本方針③



広い視野と知識を持ち、いかなる場面においても活躍できる人材を育成します。

＊「ポリバレント(Polyvalent)」とは、化学用語で「多価」を意味し、病院薬剤師でいうと、広い視野と知識を持ち、様々な場面における課題解決能力の高い人材を意味します。

JCHOプログラム 3つの特徴

① 全国57施設で共通のプログラムを受講できる

JCHOネットワークの強み



全国共通の研修プログラムを導入しています。
オンライン症例検討会や多施設での研修を通して、幅広い症例を経験し、視野を広げ、実践力を高めます。

② 成長を"見える化"する独自評価システム



定期的なフィードバックと達成度の可視化で、確実なステップアップを支援します。

③ 指導薬剤師による丁寧なフィードバック



経験豊富な指導薬剤師が、日々の学びに寄り添いながら丁寧にサポート。安心して成長できる環境です。

「学び」と「働きやすさ」の両立をサポート



就職支援制度で学びを応援



卒後研修・キャリアラダーでキャリア形成を支援



子育て支援制度で働きやすさをサポート



完全週休二日制でメリハリある働き方を実現

ポリバレントファーマシスト育成研修プログラム

研修スケジュール

START

PGY1（1年目）
医療薬学一般コース

病院薬剤師としての基本業務を習得するため、実践的な研修を行います

PGY2（2年目）
医療薬学専門コース

基本業務の成熟度を上げ、臨床薬剤業務の専門性を高め、薬学的な介入を積極的行います

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
PGY1 1年目	配属先 (2～3か月毎)	オリ エン テー シ ョ ン	調剤業務・薬品管理・DI・無菌調製・がん化学療法・院内製剤										
			患者安全：医療安全・医薬品安全関連インシデント・感染制御・在宅医療・地域連携										
	病棟業務＊・外来・チーム医療・手術室 ＊選択（TDM、透析、ICU、HCU、CCU、小児、産婦、精神、治験等）												
	症例報告		症例報告＊（月1例程度）＊プレアボイド報告および在宅1例を含む										
	学術・研修	新人研修受講（日本病院薬剤師会） （各都道府県病院薬剤師会）				研修受講（日本病院薬剤師会病院講習会等） 関連学会参加（日本医療薬学会、日本病院薬剤師会、JCHO学会等）						PGY1 報告	
PGY2 2年目	配属先 (2か月毎)	調剤業務・薬品管理・DI・無菌調製・がん化学療法・院内製剤											
		患者安全：医療安全・医薬品安全関連インシデント・感染制御・在宅医療・地域連携											
	病棟業務＊・外来・チーム医療（希望選択重点方式）＊選択（TDM、透析、ICU、HCU、CCU、小児、産婦、精神、治験等）												
	症例報告	症例報告＊（月1例程度）＊プレアボイド報告および在宅1例を含む											
	学術・研修	研修受講（日本病院薬剤師会病院講習会等） 関連学会参加・発表（日本医療薬学会、日本病院薬剤師会、JCHO学会等）									PGY2 報告		
共通	面談	部長面談					部長面談					部長面談	
	評価	自己評価・指導者評価											

JCHOオリジナル評価システム

成長を「見える化」する到達度記録・評価シート（サンプル）

到達度記録・評価シート 調剤業務							
研修目標：個別化医療を実現するための調剤業務の遂行とそれに必要な知識とスキルを習得する。							
大項目	小項目	目標到達度	自己評価			指導者評価	
			前期	中期	後期	前期	中期
			/	/	/	/	最終 (後期)
内服外用調剤	処方箋の記載事項（医薬品名、用法、用量等）が適切であるか確認できる	5					
	錠剤の粉砕およびカプセル剤の開封、及び簡易懸濁の可否を判断し、実践できる	5					
注射調剤	配合変化の回避、工夫を必要とする医薬品を説明できる	2					
	注射薬の調製後の安定性について説明できる	2					

前期・中期・後期の定期評価

自己評価と指導者評価の両面から成長を確認

到達度を5段階で可視化

Q&A

Q1 研修期間中の雇用形態は？

常勤職員（任期なし）として採用されます。研修終了後も、継続してJCHO病院薬剤師としてキャリアを積むことができます。

Q2 認定・専門薬剤師取得の支援はありますか？

認定・専門資格を有する薬剤師が全国に多数在籍しており、資格取得に向けたアドバイスや学習支援など、きめ細やかなサポート体制を整えています。

Q3 卒後研修終了後のキャリアは？

ポリバレンタファーマシストとして幅広い経験を積みながら、専門・認定薬剤師取得や管理業務など、それぞれのキャリア形成を支援します。

Q4 大学病院レジデントとの違いは？

地域の市中病院として、日常診療で対峙する幅広い病態・疾患に対応できる実践力を重視しています。JCHO独自の評価シートで成長を可視化し、自身の成長を実感しながら学びを深めることができます。

先輩メッセージ



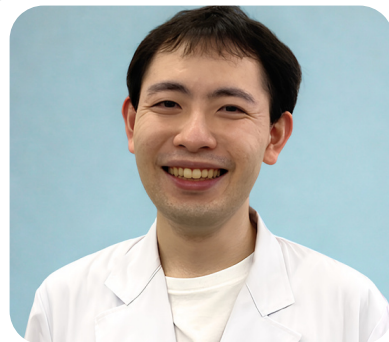
R.K.
JCHO新宿メディカルセンター

充実した研修や互いを尊重し働く温かい職場に惹かれ入職しました。JCHOは病院ごとに特色があるので自分に合う職場に出会えるよう応援しています。



H.T.
JCHO徳山中央病院

幅広い症例や多様な業務を経験できる点に魅力を感じ、志望しました。丁寧な指導のもと、充実した環境で学ぶことができます。



H.N.
JCHO船橋中央病院

全国規模の病院組織ならではの強みを活かし、専門性の高い研修を全国にいる先輩方から受けることができ、より広く知識を身につけられます。是非一緒に働きましょう！

お問い合わせ

お気軽にご相談ください

独立行政法人地域医療機能推進機構 本部医療課（薬事専門職）



<https://www.jcho.go.jp/recruit/jcho-pharmacist/jcho-pharmacist/>



iryoka@jcho.go.jp

